

関係委員意見聴取メモ

関係委員	(所属)立教大学理学部 教授 (氏名)上田 恵介
日時	(日付)平成24年12月19日(水)
聴取者	環境総合政策局環境影響評価課環境影響審査室 審査官 田中 獏 自然環境局自然環境計画課 課長補佐 野木 宏祐
<p>要領4.(2)利害関係者の除外</p> <p>・別紙「当該事業に利害関係を有する関係委員について」に基づき、意見聴取しようとする事業に係る利害関係の有無を確認。</p> <p style="text-align: right;">利害関係 _____ 有 _____ ・ <u>無</u> _____</p>	
<p>要領4.(3)秘密保持の承諾</p> <p>・環境影響評価法手続に基づき作成される図書に含まれる希少な動植物種の生息・生育地の情報その他の秘匿すべき情報を外部にもらさない旨の承諾。</p> <p style="text-align: right;">_____ <u>承諾</u> _____ ・ _____ 非承諾 _____</p>	
<p><ヒアリングメモ></p> <p>事業実施区域及びその周辺の状況について</p> <p>事業実施区域である水田地域等は、落穂等を餌とするガン・カモ・ハクチョウ類にとって重要な採餌場である。また、ガン・カモ・ハクチョウ類は事業実施区域周辺の津軽十三湖を埒(ねぐら)として活用している。</p> <p>ミサゴやオジロワシ、チュウヒ、ハイイロチュウヒ及びチュウゲンボウ等の希少猛禽類の生息及び繁殖等が確認されており、特に、オジロワシについては6～7月に確認されていることから東北地方における繁殖の可能性も示唆される。</p> <p>オオセッカについては岩木川河口周辺のヨシ原を繁殖地としている他、ハジロ類及びアイサ類等のカモ類が津軽十三湖を埒及び採餌場と活用しており、トウネンやチュウシャクシギ等の内陸の水田・湿地などを利用するシギ・チドリ類が確認されている。</p> <p>これらのことから、事業実施区域及びその周辺には数多くの鳥類の生息環境として重要な地域であり、風力発電の設置は避けるべき地域であると考える。</p> <p>鳥類の衝突確率の予測について</p> <p>準備書においては「回避率を考慮しない場合にマガンの埒・餌場の移動による年間の衝突数は777.82羽、渡りによる衝突数」と予測されている。予測に当たっては不確実性が高いことが想定されるが、事業実施区域及びその周辺の状況から、著しいバードストライクが発生することが想定される。</p>	

カモ類は夜間に移動すること、ガン類は朝夕の日照条件が悪い時期に移動することや強風が吹くなどの天候条件が悪い時でも採餌を行うことがあることから、準備書で採用している回避率よりも安全側に見積もる必要がある。

なお、海外と国内では生息する鳥類や行動が異なることが明らかであることから、海外の回避率などの事例を直ちに国内に当てはめることは危険だと考える。

事業計画及び環境保全措置の抜本的な再検討について

津軽十三湖周辺は鳥類の生息環境として重要な地域であり、特に、風車が建設される水田などはガン・カモ・ハクチヨウ類にとって重要な採餌場であること、予測結果からも多数のバードストライクが発生する可能性があることから、今回の事業実施区域における風車の設置を見直すなどの事業計画及び環境保全措置の抜本的な再検討を求めるべき。